

特選  
2010  
文部科学  
大臣賞

「金融と経済の明日」第8回高校生小論文コンクール

## 世界に誇る「時間の正確さ」を産業化へ

東京都・桜蔭高等学校 1年 濱中 みなみ

私は、今年の春にニューヨークへ旅行に行く機会がありました。

滞在初日、地下鉄のホームで電車を待っていたところ5分経過しても、電車が来る気配がなく、時刻表を見ると、既に電車が到着しているはずの時間でした。日本と同様、定刻に来ることを期待していた私は不安を感じましたが、周りの人々は、いたって普通の顔をして待っていました。そして、滞在3日目、遅れの構内放送もないまま、電車が、20分程来ないことがありました。この時は、さすがに周りの人々も不快な表情で、線路の奥の方を覗き込んだり、腕時計を頻繁に確認していました。


このことで、やはり海外の人でも日本人と同様に、待つものにも限界があるのだ、ということを実感しました。

日本に住む私たちは、定刻で運行されている公共交通機関をはじめ様々な輸送機関を利用して生活しています。また、宅配便の時間指定を利用すると、必要な物を指定した時間に手に入れることができます。

このように、交通機関や宅配便などに見られる「定時性」は日本人にとってごく普通なこと、空気のように当たり前のことと思っています。ですから、電車が5分でも遅れたら、イライラする人も出てきたり、荷物が指定された時刻に到着しなければ、問い合わせをしたりします。

不幸な事例ですが、数年前に関西で起きた電車の脱線事故は、90秒の遅れを取り戻すためにスピードを超過したことが原因であると報道されました。この事故が海外へ報道されたとき、90秒が「遅れ」とは、理解されなかったようです。日本では当たり前のことが海外では必ずしもそうでないということを知った事件でもありました。

長らく「日本の強みは製造技術にあり」と言われてきましたが、はたして日本は今後もその技術に頼り続けられると言えるでしょうか。遥か昔の主な輸出品は、



茶や生糸でしたが、工業化が進むと、電化製品や自動車へと世代交代しました。現在の新興国も、やがて同じような変化が起き、経済が発展することで海外製品の模倣から、やがて独自の技術を磨いて日本に追い付くのではないかと考えるのは、自然な流れだと思います。日本が今後も、世界をリードする製品を生み出し続けることは<sup>もちろん</sup>勿論重要ですが、それだけではなく、製品に「高い定時性」などの優れたサービスを付加させることで、日本の商品やサービスの優位性を保ち続けることが期待できるのではないのでしょうか。

ニューヨークでの経験から、世界には「時間に正確なサービス」を享受したいと思いつつも、それがないために困っていたり、そもそも時間に正確なサービスがあることすら知らない人々もいるのかもしれないと考えました。そして、人々に「時間の正確さ」がもたらすメリットを理解してもらえると、日本の輸送機関をはじめとした企業が重要としていることの一つである「定時性」は、世界に提供できる産業の強みとなるのではないかと考えます。

正確な場所に、正確な量を、時間通りに配達する。このサービスを提供するためには、「時間に正確」な文化を有していて、かつ、信頼性や安全性の高い製品や製造技術を持っていることが重要になると思います。これを実現化させる技を提供できるのは、現在のところ日本のほか一部の国だけではないかと考えます。実際、日本と同じくらい正確に鉄道や宅配サービスが動いている国はあまり聞いたことがありません。「時間の正確さ」は、世界に通用する日本の強みを活かした商品、サービスの一つと言えるのではないのでしょうか。確かに、ヒトやモノを運ぶことは、昔から存在するものですが、事故や故障の少ない日本の輸送機関や、システムといったハード面。また、輸送機関に携わる人々の定時性を守ることへの強い意識に根ざしたサービスなどのソフト面。これら両面を併せて提供することで、輸送機関の定時性を必要としている国々や人々のニーズに対し、付加価値の高いサービスを提供し続けられるものと思います。

自動車社会のアメリカでは、排気ガスの削減による環境への配慮と輸送の効率化のため、環境にも優しい鉄道の計画を、オバマ大統領が発表しています。鉄道は、自動車や航空機よりも温室効果ガス削減に<sup>つな</sup>繋がるという点で、アメリカで再評価され出しています。しかし、鉄道だけでは「戸口から戸口まで」の運送ができません。ここで駅から目的地までは、自動車を利用することになりますが、

交通機関を定時性が確保されないまま発展させても、そのメリットを十分に活かすことはできないと思います。

日本では当たり前の「時間の正確さ」ですが、これは、ヒトやモノが正確に動くという物理的なメリットだけではなく、荷物の到着時刻が分かっていると、送り手のみならず、受け手も時間を効率良く使うことができるため、経済活動がより効率化、活性化されると思います。

時速300km近くで走行する日本の新幹線が、3、4分に1本の割合で正確・安全・高速・大量輸送を維持しつつ走っていることに海外の人は驚くようです。これは製造技術の素晴らしさもさることながら、その運行サービスを管理するシステムや関係者の意識を察してのことだと私は思います。それ故に、この「時間の正確さ」を、機械装置、運送用機器、人的管理、ITなどの物流システム全体と一体化して、世界で必要としている国々へ提供できれば、この便利さを知った人たちから受け入れられると思います。

日本には1,400兆円を超える豊富な個人金融資産があると日本銀行から発表されています。<sup>1)</sup>しかし、多くの資産が現金・預金で運用され、国内経済を活性化させられる株式へは、なかなか行き渡らない状況が続いています。そこで、日本が誇る信頼の高い定時性や安全性を含む製品を、新興国が導入する際には、個人金融資産を活用して支援を行うことにより、金融とインフラの両面で新興国の経済発展に役立つと思います。支援側の日本は、「ものづくり」の産業だけではなく「金融及びサービス」の産業へ、より広い経済効果が期待できるのではないのでしょうか。

私が考える日本経済を活性化させる産業とは、<sup>ばくだい</sup>莫大な資本を投入して新しい技術や革新的な製品を生み続けることも重要ですが、国内の経済が低迷している時代だからこそ、伝統や文化が育んできた当たり前のことを見つめ直し、「時間の正確さ」を海外で商品化するなどの発想が必要だと思います。産業化された「時間の正確さ」は、世界に「定時性」や「効率性」を提供し、不便さの改善に寄与しているのだという誇りを、日本人に与えてくれると思います。そして、「日本発」の商品やサービスへの評価が高まることで、日本経済を活性化させる産業になりうると思います。

事務局注 1) 日本銀行『国際比較：個人金融資産1,400兆円』 URL <http://www.boj.or.jp/type/exp/seisaku/exphikaku.htm>